

## 未来へつなぐ あだちプロジェクト 足立区子ども・若者計画（案）に関する パブリックコメントの実施結果及び意見に対する区の考え方について

### 1 パブリックコメントの実施結果

- (1)実施期間 … 令和8年1月27日(火)から2月26日(木)
- (2)意見提出数… 2名から3件
- (3)提出手段 … 区のホームページの意見受付フォーム2名

### 2 主な意見

学習環境1件、若者支援1件、意識啓発1件

### 3 意見の概要と区の考え方

No.	内訳	意見概要	区の考え方
1	学習環境	MIMや学習支援ボランティア事業など、学力定着に向けた多層的な取組が体系的に整理されている点は評価する。一方で、学習支援ボランティアの具体的な活用方法については、学校や個々の活動者の裁量に委ねられている面も見受けられるため、活動目的や役割の明確化、基本的な支援方法や情報共有の仕組みの整理、研修機会の整備などにより、一定の質を担保しつつ、より効果的な運用を図ってほしい。	学習支援ボランティア事業は、ボランティアの方々の善意と自発的な熱意によって支えられています。現在、ボランティア活動を開始する際に、活動者に案内文を配布し、目的等を周知していますが、併せて4月の登録時にアンケートを実施し、どんな困り感があるかなどご意向を確認したうえで研修の実施の有無を含めて検討いたします。また、校長あての通知文書において、ボランティア活動の目的や役割等を改めて周知するとともに、各校の効果的なボランティア活動を全校に共有するなどし、教育委員会として学校間の格差が生じないよう尽力いたします。
2	若者支援	①若年者支援について  子どもの貧困対策を基盤としつつ、すべての子ども・若者へと対象を広げ、具体的なデータに基づいて施策を展開している点は評価する。とりわけ若年者支援に力を入れている点は意義が大きい。その上で、高校中退者や無業の若年者の把握が難しいという課題に対し、高校との連携をさらに強化し、中退前後の段階で必要な支援情報が確実に届く仕組みの充実を求める。また、SNS等による周知、学校等へのアウトリーチ、心理的負担を軽減する工夫など、若者の実態に即した支援手法の一層の展開を期待する。	高校生世代に対する情報発信について、子どもの貧困対策・若年者支援課では、区内の都立高校を定期的に訪問し、校長をはじめ、生徒との距離が近い教員や都のコースソーシャルワーカーに対して、区の各種若年者支援制度をご案内し、中途退学を検討している生徒に対し、必要な支援情報が確実に届くよう取り組んでおります。 一方で、中退後や無業の場合など、行政や学校、地域とつながりが少ない若者への情報伝達は大きな課題です。現在も、若年者支援情報をまとめ「若者サポートポータルサイト」として区ホームページに掲載しておりますが、今後も区のSNSでの発信を積極的に行うことに加えて、都立高校を始めとする学校関係者や、中退後や無業の若者を支援している地域団体と連携し、ご意見を伺いながら、「必要な若者に、確実に伝わる情報発信」に努めていきます。 また、区の委託事業として若者の悩みに寄り添い支援を行う「あだち若者サポートテラスSODA」を展開しているところですが、若者の悩みは複雑かつ多様化し、相談件数も年々増えています。今後も実態に即した支援ができるよう、地域や団体、企業などと連携して取り組んでいきます。
3	意識啓発	②「こどもまんなか」に向けた社会(区)全体の意識改革について  若者会議の実施など、子ども・若者を支援の対象にとどめず、社会をともにつくるパートナーとして位置付けている姿勢は評価する。今後は、行政内部にとどまらず、区民や関係機関を含めた社会全体に「こどもまんなか」の理念を広げるため、こどもの権利に関する普及啓発や研修の充実、「こどもまんなか応援サポーター制度」の活用検討など、具体的な意識醸成の取組を進めてほしい。	これまで「子どもの貧困対策」を進めるなかで、区職員や区民を対象とした研修や講演などを実施しながら「こどもまんなか社会」の理念を広げることに努めてきましたが、今回の「子ども・若者計画」の策定を契機に、さらに取り組んでいくべき課題と認識しています。 こども家庭庁が進める「こどもまんなか応援サポーター制度」の活用も含めて、今後も行政内部にとどまらず、地域全体で子どもや子育て世代を支える意識をさらに醸成するため、より具体的な事業を展開しながら、子どもや若者が安心して自分の考えを表明し、社会の一員として活躍できる環境づくりを進めてまいります。